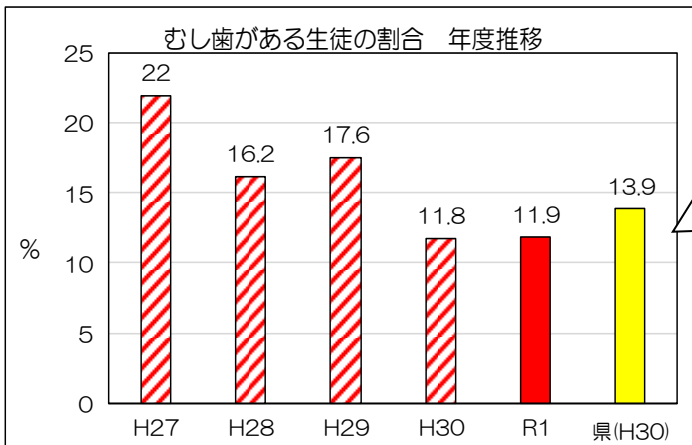




梅雨に入り、気温と湿度の高い日が多くなってきました。食欲がわかなくなったり、寝付きが悪かったりする人もいるかもしれませんが、栄養不足、睡眠不足は体力の低下を招き、熱中症のリスクを高めることにつながります。また、梅雨時はウイルスが繁殖しやすく、食中毒が起こりやすい時期でもあります。いつも以上に、石けんでの手洗いや食品の加熱に気を付けて過ごしてください。
もうすぐ始まる夏休み。体調管理とけがの防止に努め、有意義に過ごしましょう。

これからも歯を守る意識を大切に！

<平成27年度～令和元年度の歯科検診の結果より>

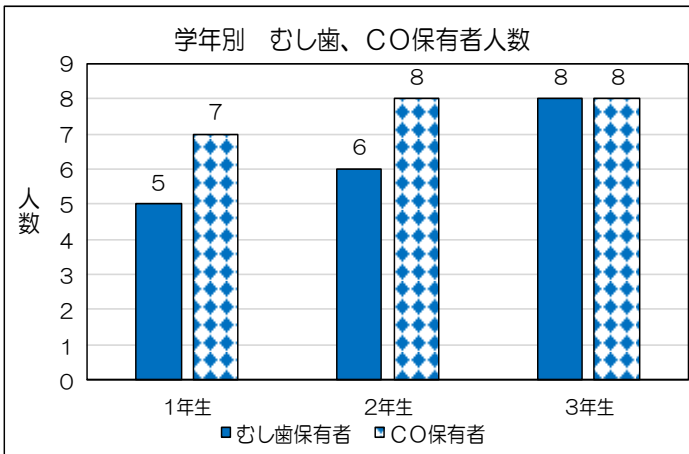
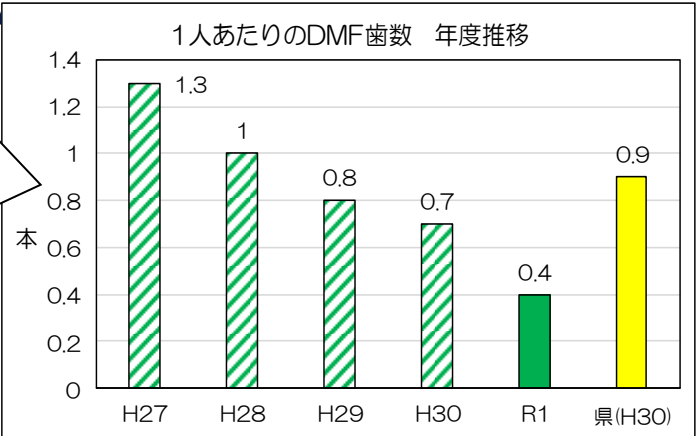


むし歯がある生徒、減少傾向

むし歯がある生徒の割合は、ここ5年間で減少傾向にあります。また、今年度の結果は、県平均の13.9%を下回るよい結果でした。
むし歯予防の基本は、「歯みがき」と「食生活」にあります。南中生は、歯みがきの習慣が身に付いている生徒が多く、とてもよいと思います。食生活については、規則正しい三度の食事、時間を決めた間食、甘い飲み物の飲み過ぎ等に気を付けてください。

永久歯のむし歯本数、大幅に減少

DMF指数とは、一人当たりのむし歯になったことのある永久歯の平均本数を意味します。南中生のDMF歯数は、年々減少しており、今年度は0.4本でした。この結果は、県平均の0.9本を大きく下回る結果です。
永久歯は生え替わることはなく、一生使い続けます。80歳になっても20本以上の歯を保てるよう、これからも歯を大切にしましょう。



早めの治療が大切です！

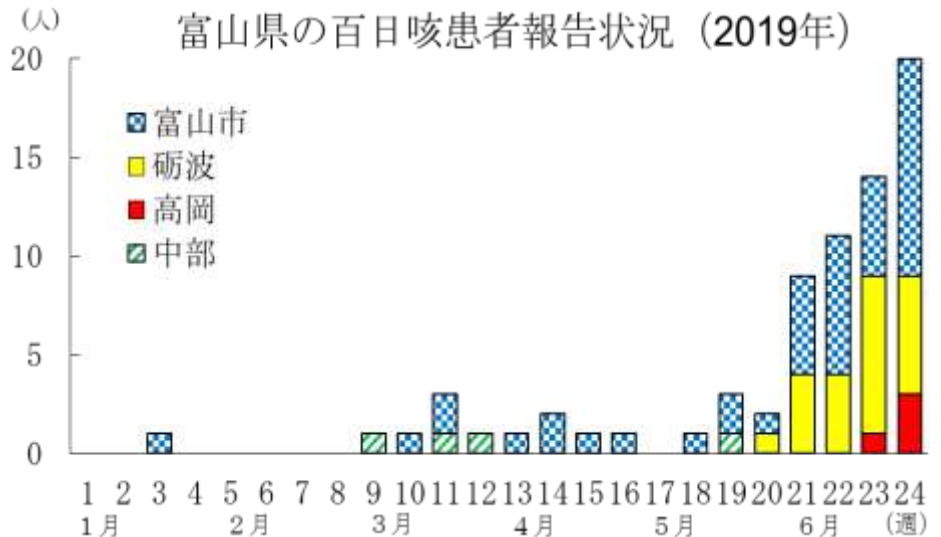
学年別のむし歯保有者は、1年生5人、2年生6人、3年生8人でした。
また、むし歯の初期症状が疑われる歯(CO)がある生徒も、全校で23人いました。
むし歯は自然に治ることはなく、放置すると、治療期間まで長くなってしまいます。医療費の助成を受けられるのは、中学生までです。夏休み等を利用し、計画的に治療を済ませましょう。

県内で、百日咳が流行しています！

県内において、3月以降、小学生～中学生と推定される年代を中心に、百日咳の患者発生が続いています。富山県感染情報センターによると、今年の報告数は、6月16日時点で72人となり、昨年の年間報告数23人をすでに超えています。高岡厚生センター管内でも4人の患者が報告されています。

1週間以上咳が続くなどの症状が見られましたら、医療機関の受診をお願いします。

予防接種を受けていても、4～12年で抗体が落ちてしまうため、小学校から中学生の患者数が多くなっているといわれています。



【富山県感染症情報センターHPより】

百日咳とは

コンコンと連続して咳き込んだ後、ヒューという笛を吹くような音を立てて急いで息を吸うような、特有な咳発作が特徴です。この症状は長期にわたって続きます。

1年を通じて存在する感染症ですが、春から夏にかけて多くなっています。

病原体	百日咳菌
潜伏期間	主に7日～10日
感染経路	飛まつ感染、接触感染
感染期間	咳が出現してから4週目頃まで。 ただし、適切な抗菌薬療法開始後5日程度で感染力は著しく弱くなる。
出席停止の基準	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。

感染拡大予防には、**咳エチケット (マスク)**、**手洗い**が有効です。

菌を
広めない！



菌を
手に付けない！